ガイドビデオを放映中

西郷隆盛宿陣跡資料館

12/22

延岡市

延岡市は、1877（明治10）年の西南戦争で薩軍最後の本陣となった西郷隆盛宿陣跡資料館（同市北川町俵野）で、最後の組織的戦闘となった「和田越えの決戦」を中心としたガイドビデオ映像の放映を始めた。映像は約7分間＝写真＝。

映像は、薩軍3500人で政府軍5万人に挑んだ同年8月15日の和田越え決戦や、圧倒的兵力差に退いた先の児玉熊四郎邸（現同資料館）での宿陣、同17日夜に出発し包囲を突破した「可愛岳突囲戦」の歴史の流れを写真やナレーションで紹介。

宿陣中の同16日午後に西郷が薩軍全軍に解散布告令を出したことや、児玉邸で当時の日本に1着しかなかった陸軍大将の軍服を焼却したエピソード、可愛岳突囲戦の決定に至るまでの16日から17日にかけての軍議の様子などについても触れている。

ガイドビデオは、来場者に延岡や北川を舞台にした西南戦争の歴史や、西郷隆盛の心情への理解を深めてもらおうと延岡市が制作。モニターの下部にスタート・停止ボタンがあり、来館者は自身のタイミングで映像が視聴できる。

同資料館は和田越の決戦から児玉熊四郎邸宿陣、可愛岳突囲戦などの歴史のパネルをはじめ、銃や刀、史資料、西郷が着用していた陸軍大将のレプリカなどを展示している。開館時間は午前9時から午後5時。年末年始（28～1月3日）は休館。

問い合わせは同市観光戦略課（☎延岡34・7833）。

2020.12.22

独創的なアイデアが重要

ノーベル賞吉野さんが延岡市で講演

名誉市民にも

12/22

延岡名誉市民の証書を受け取る吉野さん（右）

昨年ノーベル化学賞を受賞した旭化成名誉フェローの吉野彰氏（72）の受賞記念講演会は20日、延岡市の延岡総合文化センターであった。県北地域の中高生、一般を対象にした2部構成で行われ、市民ら約1500人が来場。吉野さんは自身の研究を振り返りながら、近未来の展望や常識にとらわれない考え方の重要性などを示した。主催は同市、市教育委員会。

吉野さんの話に聞き入る市民ら

「リチウムイオン電池が拓（ひら）く未来社会」と題して登壇した吉野さんはまず、リチウムイオン電池に用いる炭素繊維を延岡市の旭化成の繊維関連研究所から入手できたこと、同じく旭化成東海工場で安全性試験を行ったことに触れ、「（開発やノーベル賞受賞は）延岡のおかげと言って過言ではない」と話した。

また、環境問題関連でリチウムイオン電池の研究開発が盛んになっている現状を示しながら、無人自動運転を行う人工知能を搭載した電気自動車（AIEV）の普及による「環境・経済性・利便性」の同時実現に期待を寄せた。

来場した中高生たちに対しては、常識や固定観念にとらわれない独創的なアイデアの重要性を訴え、「リチウムイオン電池の周辺でAIEVなどのシナリオが描かれつつあり、若い人には絶好のチャンス。近い将来を見据え、勉強しておいてほしい」と呼び掛けた。

延岡高校3年の笠将稀さんは「延岡で生まれたことを誇りに思える講演だった。時代の波に乗るため、将来に向けて備え続けたい」。延岡中学校3年の新名にこさんは「まさに活躍中の人の話を聞き、（延岡から）未来に貢献できる人材が増えると感じた」と話した。

会場では延岡市名誉市民の授与式もあり、読谷山洋司延岡市長から吉野さんに証書や勲章などが贈られた。

2020.12.22